

## 平成 30 年度山形県私立学校審議会議事録

- 1 日 時 平成30年12月25日（火）13時30分から14時35分まで
- 2 場 所 山形県庁1201会議室
- 3 委員定数 12名
- 4 出席委員 11名 小山清人、小松伸也、奥山優佳、白旗希実子、佐藤規子、九里廣志、齋藤 哲、児玉昭平、高橋栄美子、齋藤正典、高橋朝子（敬称略）  
欠席委員 1名 涌井朋子（敬称略）
- 5 開 会（13時30分）
- 6 諮問事項
  - （1）「米沢調理師専門学校」の廃止認可について
  - （2）「天童東第二幼稚園」の収容定員に係る学則変更認可について
  - （3）「天童東幼稚園」の収容定員に係る学則変更認可について
  - （4）「小松幼稚園」の収容定員に係る学則変更認可について
  - （5）「南山形幼稚園」の収容定員に係る学則変更認可について
  - （6）「大手幼稚園」の収容定員に係る学則変更認可について
  - （7）「かしのみ幼稚園」の収容定員に係る学則変更認可について
- 7 審議の経過及び結果

私立学校審議会規則第2条により小山会長が議長となり、諮問事項の審議に入った。

はじめに議事録署名人の指名が行われ、議長より議事録署名人に高橋栄美子委員と齋藤正典委員を指名した。

  - （1）諮問第1号について

事務局より諮問内容を説明し、審議を行った。

<主な質疑・意見等>

    - ・置賜地域で唯一の調理師専門学校で地域の子供たちにとっては、他地域に行かなくても学べるという場所ですが、仕方のないことかと思う。（委員）

諮問第1号については、認可を可とする答申を行うことを確認した。
  - （2）諮問第2号及び第3号について

一括して事務局より諮問内容を説明した。その後、児玉昭平委員から平成30年11月26日に実施した現地調査の結果について報告あり、引き続き審議を行った。

<報告内容>

    - ・天童東第二幼稚園が30名の定員増、天童東幼稚園が30名の定員減でプラスマイナスゼロということで、同じ地区の幼稚園に関して影響ないと判断した。現地調査をした結果、設置基準、教育環境等については基準をはるかに満た

しており問題ないことを報告する。(児玉委員)

<主な質疑・意見等>

- ・今回の定員増・定員減はどういった理由があつてのことか。(委員)
- ・幼稚園の現状実員にあわせた形ということで、それぞれの幼稚園の定員を見直したいという意向となっている。(事務局)

諮問第2号及び第3号までについては、認可を可とする答申を行うことを確認した。

(2) 諮問第4号について

事務局より諮問内容を説明した。その後、高橋栄美子委員から平成30年11月19日に実施した現地調査の結果について報告あり、引き続き審議を行った。

<報告内容>

- ・町で唯一の私立幼稚園という認識があり、特別支援の園児の受入れやデイサービスセンターの高齢者との交流など地域に大きく貢献している幼稚園であった。現地調査をした結果、園地、園舎とも問題ないことを報告する。(高橋委員)

<主な質疑・意見等>

(質疑、意見等なし)

諮問第4号については、認可を可とする答申を行うことを確認した。

(3) 諮問第5号から第7号について

事務局より諮問内容を説明し、審議を行った。

<主な質疑・意見等>

- ・大手幼稚園については、過去5年間の園児数の平均が11名、最大で13名となっている。定員70名から35名の減となっているが、例えば20名とすることにはならないのか。それとも、所管課として下限は35名という考えなのか。(委員)
- ・文科省の定めている幼稚園基準に1学級35名以下とあるため、県も準じている形。希望があれば20名と設定することも可能。(事務局)
- ・1学級の定員が35名であるが、この場合は3学級で35名となっているのではないか。(委員)
- ・人数自体が少ない状況にあり、異年齢の園児による縦割り学級として設定されている。(事務局)

諮問第5号から第7号については、認可を可とする答申を行うことを確認した。

## 8 報告事項

報告事項「第73回全国私立学校審議会連合会総会」について、事務局より報告を行った。

### <主な質疑・意見等>

- ・私立学校審議会が様々な場面で話題になり、審議会自体がどこまでチェックして、認可するのかということが注目されている。広域通信制の高校については、高校の卒業資格を得るだけでその他は自分の好きなことをできるという傾向になっている。総会では、高校教育というものはこれでよいのかという議論になった。(委員)
- ・広域通信制と狭域通信制の違いは何か。(委員)
- ・募集地域が3県以上になると広域通信制になる。(事務局)
- ・総会への本県からの参加体制、費用等はどうなっているのか。(委員)
- ・委員1名と事務局1名で参加しており、費用は予算化されている。(事務局)
- ・規定で各1名と決められているわけでないのであれば、他の専門部会にも参加できるよう他の委員の方にも参加していただき、審議会の役割等を認識していただく環境づくりを整えるよう取り組んではいかがか。(委員)
- ・予算の関係もあるが、他の専門部会にも参加できるよう考えていきたい。(事務局)

## 9 その他

### (1) 質疑・意見等

- ・山形県の様々な戦略の中でおいしいものを提供する、調理の魅力をあげていくということが大事なこととなっている。食べ物の魅力を上げていくということはこれからも必要であり、その中で調理人材はなくてはならない存在。置賜で唯一の調理学校がなくなるのは非常に残念。山形県の調理人材の育成に関して教育環境はどうなっているのか。(委員)
- ・現在、県内の調理師学校は米沢、山形、酒田の3つ。調理師に限らず、地元の学校に残ってほしいという取組みを今年度から行っているところであるが、少子化もあり様々な影響で生徒も少なくなっているということから、米沢調理師学校については廃止となってしまったという状況。(事務局)
- ・学校の経営判断としてはやむを得ないことであるが、食を売りにしていく山形県として今後の育成環境についてどのようなビジョンを持っているのか。今回の廃止に関して、問題がないと考えているのか。(委員)
- ・観光や調理師育成という面で関係課との情報交換は行っておらず、「学校」という点で判断していた。(事務局)
- ・この申請に至るまで、学校側から相談等はあったのか。(委員)
- ・私立所管課としては、今年度に入ってから何回か相談はあったが、経営が厳しいとのことだったため、今回のような結果となった。(事務局)
- ・専門学校への進学者が全国的に3割近く減っている。調理師は不足しているが、他分野に学生が集まっているという状況。調理師の職場はきつい、給料が安いと言われ、また嗜好の違いで成り手がない。(委員)
- ・高校では調理師を目指す生徒がいないわけではないが、学校が近いからと言ってそこに行くわけでもない。どんな先生に習いたいのか、どんな施設を持った学校が良いかなどいろいろと考えて選んでいる。(委員)

### (2) 報告

「幼児教育の無償化」について、事務局より説明を行った。

<主な質疑・意見等>

- ・ 就園奨励費補助金については、同時期に廃止となるのか。(委員)
- ・ 9月までは就園奨励費となり、10月からは無償化の対象となる。(事務局)

10 閉 会 (14時35分)